

What's happening?

ブータン:雷龍の国



大学院工学研究科知能情報工学専攻
博士前期課程2年
TSSHERING CIGAY DORJI
ツェーリン・スィーゲイ・ドルジ [ブータン]

ブータン人はブータンのことを「雷龍の国」を意味する「ドルック・ユル」と呼びます。独自の「国民総幸福量」という哲学を国の最終目標とし、豊かな自然と文化を保ち、平和な仏教王国としてその魅力がここ最近世界に知られてきています。ヒマラヤの麓に位置し、北にチベットと南にインドを国境とし、面積は九州程度でありながら、標高200メートルから7000メートルにおよび、人口約60万人です。歴史上、一度も植民地化されたことがないことは、ブータン人にとっての誇りです。1974年に最初の観光客が入国するまで、鎖国政策の中で海外との接触を避け、独自の伝統と文化を維持・発展させてきました。

親や年上の方、先生を敬うことはブータン社会でもとても重要視されています。ブータンの国語であるゾンカ語にも尊敬語があります。他にも多くの共通点があるため、日本人の行動・振る舞いを理解することができます。おそらく、ブータンと日本の文化的共通点は、仏教的価値観に由来するのだと思います。今もブータンでは、仏教信仰は人々の生活の中に鮮やかに生きています。ブータンには数多くのお寺があり、ほとんどの家庭には仏間があります。お年を召した老人は、家族の支えによって生活し、経を唱えたり、仏舎利塔の周りを歩き周ったりしてその時間を過ごし、精神的追及を実践することによって、残りの

人生の新たな意義と喜びを見つけます。

最も有名な祭りはツェチュと呼ばれていて、一番上等の民族衣装を着て、見ものである仮面舞踊を観ます。

ブータンは経済的に豊かではありませんが、貧困はみられず、医療と教育は無料です。ブータンのほとんどの歳入は、水力発電による電力を隣国に売ることによって成り立っています。第4代国王が2008年より立憲君主制に国を移行し民主化することに決定し、その準備として、2006年12月、自ら王位から退き26歳の皇太子を第5代国王として任じました。数十年の間、ブータンの寛大な父として国をリードし、国を民主化へと導いた前国王を懐かしむ想いと、感謝の気持ちでいっぱいです。

しかしこのことは、一切は移り変わるということを私たちに思い出させてくれただけのことです。時の変化とともに、私たちも変化し進歩しなくてはなりません。日本のような経済大国から経済的目標を達成するために学びながらも、伝統的価値観を見失わないよう注意し、物質的・精神的豊かさのバランスをとり続けていきたいです。



Masked Dance during Tshechu Festival



岡山城



Bhutan's international airport at Paro



Tshechu festival



Taktshang Temple



A chorten at Punakha

海外体験記 行ってきました

南カリフォルニア大学 米国・ロサンゼルス 滞在記

大学院ソシオテクノサイエンス研究部
エネルギーシステム部門
川田 昌武 かわだ ますたけ

私は、文科省・海外先進教育実践支援プログラムにより、米国・ロサンゼルス南カリフォルニア大学(University of Southern California:以下USC)に2005年3月末から1年間派遣されました。USCは西海岸最古の私立の総合大学(1880年創立)で、ロサンゼルス中心街から数kmに位置しています。構内は芝生、花、樹木がとても綺麗で、気候も年間を通じて温暖ということもあり、年中、楽しむことが出来ました。USCには全米と約150ヶ国出身の総数32,000人(学部16,500、大学院15,500)の学生が在籍しています。留学生は全米1位の5,533人(学部1,436、大学院4,097)です。

スポーツも盛んで、フットボールは全米優勝11回、野球12回、陸上26回で、プロスポーツ、オリンピック選手を多数輩出しています。卒業生には映画監督(スター・ウォーズ)のGeorge Lucas氏もおられ、同氏が1億7500万ドル(約205億円)をUSCに寄付すると発表されました(2006年)。

私が所属したViterbi School of Engineering(大学院工学研究科)は大学院ランキングで全米7位(私立で3位)に位置付けられています。この名称は卒業生Andrew Viterbi博士(情報通信)が5200万ドルを寄付したことから2004年に付けられました。研究はRichard

M. Leahy 教授(イギリス出身)率いる生体イメージング研究室で「信号処理による脳内電磁現象可視化」を進めました。研究室は博士課程の学生(中国=3、トルコ=2、インド=2、韓国=1、ギリシャ=1、ブラジル=1)とポスドク(ドイツ=1、韓国=1)から構成され、毎日が国際会議という感じでした。なお、修士課程以下の学生は研究室に配属されません。同研究室は米国内外の大学、機関と共同研究を進めており、各機関の研究者が数ヶ月に1度は来訪し、議論するという環境でした。教育では、学位審査や博士課程の講義を聴講し、米国の教育に直接触れることが出来ました。

住居は、アパート(1万人程度居住のアパート群)を借りました。芝生、花、樹木が綺麗で、隣は世界の料理が気軽に食べられるマーケット、ショッピングモール、スーパーもあり便利な立地でした。

最後に、本滞在機会を下さりました伊坂教授を始めとする先生方、事務部の皆様に御礼申し上げます。



USC Trojan像



ドジャース・スタジアム



ハリウッド・チャイニーズ・シアター



USCの芝生



USC電気工学棟



ロサンゼルス中心街

冬号特集「徳大発 地球にやさしい環境対策」を読んで



●時宜を得たテーマであり、徳大の環境対策への具体的な取り組みの概要が分かり、興味深かった。
●地球存続のために一番しなければならない環境問題をとりあげたことが良い。徳島としてやらねばならない吉野川、動植物との共生も少しとりあげている。

●大学がキャンパスにおいて、また地域と連携し実践できた点、そしてしなければならない点をもう少し具体的に示すことはできたのではないのでしょうか。

読者の言葉

とくtalkへのご意見

●人物の大きな写真より、内容を分かりやすく紹介するような写真やイラストを入れた方が良いでしょう。

●文章、それも漢字の多い文章が続いていると(中略)読む気にならなくなるものです。漢字とか尚適切な比率があると思うのですが、一度調べてみてはどうでしょうか。

→建設的なご意見ありがとうございます。レイアウト、文章に配慮した紙面作りを目指します。